



INNOVATOR'S
GARAGE

～次代を創る研究者による最先端の研究紹介～

アカデミックナイト 第5回

主催：一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

中部圏の大学で生まれている数多くの技術シーズと企業とのマッチングを目的として、第5回アカデミックナイトを開催します。アカデミックナイトでは、各回テーマごとに次代を創る研究者が登壇し、最先端の研究を紹介するとともに参加者と議論することで、産学連携を深めます。今回のテーマは「**人間を中心に据えたIoT**」です。ぜひご参加ください。

講演1【ヒトの行動がまるわかり】(18時00分～19時00分)

「人の行動認識とそのアプリケーション」

スマートウォッチなどでは、人の「歩いている」や「眠っている」といった状況を認識し、生活リズムを記録することができますが、高度な技術を用いることで実際にはより多くの行動内容を把握することができます。そのような技術内容やアプリケーション例、また、同時に発生する問題などについてお話しします。

豊橋技術科学大学 情報・知能工学系
准教授 大村 廉 氏



講演2【音で分かる衝撃の事実】(19時00分～20時00分)

「音で分かる食べる力・話す力～ 病気の早期発見と健康維持増進に向けて」

音は様々な情報を含んでいます。呼吸音や心音が診察に役立つことはよく知られていますが、その他の生体音も病気の早期発見や健康管理に役立つことが分かって来ました。ここでは、人の「食べる力」「話す力」の測定を中心に、今後の研究の可能性について紹介します。

静岡大学 情報学部 情報科学科
教授 西村 雅史 氏



交流会 (20時00分～21時00分)

立食形式による交流会を開催します。(アルコールの提供があります)

日時/ **2019年11月28日(木)**

18時00分～21時00分 (受付開始 17時40分)

会場/ **ナゴヤ イノベーターズ ガレージ** 【定員30名】

参加費/ **1,000円** (交流会費込み)

※本プログラムは中部経済連合会およびナゴヤイノベーターズガレージ会員向けプログラムです

お問い合わせ先



INNOVATOR'S
GARAGE

一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

<https://garage-nagoya.or.jp>

〒460-0008

名古屋市中区栄 3-18-1 ナディアパーク4F ナゴヤ イノベーターズ ガレージ

詳細・申込みは
こちらから！



・講演1

大村 廉 氏

豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 准教授

1999年慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業、2001年同大学大学院理工学研究科計算機科学科前期博士課程修了、2004年同大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻後期博士課程修了、2007年より慶應義塾大学理工学部情報工学科助教、2010年より豊橋技術科学大学情報・知能工学系講師、現在に至る

研究・技術シーズ概要：

ウェアラブルコンピュータや、空間内に配置したセンサなどを用いて、人の行動や状況を理解し、我々の生活を安全・安心・快適にするシステムの研究を行っています。センサデバイスの開発から、ネットワークアーキテクチャ、プログラムの開発環境、AIを用いたセンサデータ分析・処理まで、幅広く研究に取り組んでいます。

パーソナルスケール

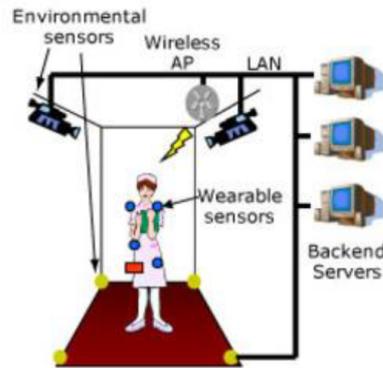
ウェアラブルコンピュータやスマートフォンを用いた、個人の行動や位置を把握するための技術開発をしています。例えば、看護師の業務履歴の追跡やリハビリの評価システムの開発を行っています。

ホーム/オフィススケール

上記に加え、環境に設置したセンサを用いて、人や場の状況を理解するための研究を行っています。センサデバイスの開発や、各機器を連携動作させるためのネットワーク基盤、だれでも簡単にアプリケーション開発できるようにするための開発環境の研究などを行っています。

アーバンスケール

街のスマートシティ化を目指し、構造物モニタリングシステムの開発や、交通プローブデータの分析、街の伝統文化を活性化させるためのスマートフォンアプリなどを開発・運用しています。



PRポイント：ウェアラブルデバイスやIoTデバイスを用いて、人の作業や生活をサポートするシステムを中心に研究に取り組んでいます。そのようなシステム開発やアイデアをお持ちの方々とお話できることを楽しみにしています。

・講演2

西村 雅史 氏

静岡大学 情報学部 情報科学科 教授

1983年3月大阪大学大学院基礎工学研究科物理系修了、1983年4月日本アイ・ビー・エム入社、以来、同社東京基礎研究所にて音声言語情報処理の研究に従事、2014年5月静岡大学大学院・教授

研究・技術シーズ概要：

[音情報の応用研究]

音は、画像やセンサー類に比べて収集・分析が容易で、その上、情報に富んでいます。この研究室ではビッグデータの時代にあって未活用な音情報資源に着目し、音声認識技術による言語的な情報抽出に加え、音の分析と自動検出に基づいてヒトの心身状態を理解するための技術を研究しています。

また、非侵襲で簡便なセンサーデバイスの開発や、適切な信号処理と深層学習に基づく高度な識別手法の研究、さらにはスマホベースの簡便なアプリの提供からクラウドによる高度な情報分析システムの構築に至るまで、主に医療・介護分野での音情報の様々な応用を想定して研究開発を進めており、障害者・高齢者が失った機能を回復するための人間拡張の研究にも取り組んでいます。



「話すこと」「食べること」を中心に、人間の様々な行動を音で捉えます

PRポイント：音情報の活用をお考えの場合、活用につながるための技術について提供もしくは助言ができます。